

コミュニティ・スクールだより

氷川町（組合）
コミュニティ・スクール
連携協議会事務局 上野
平成28年11月18日
発行 第4号



第11回次世代育成推進フォーラムin氷川町

さらなる学校と地域の連携・協働に向けて！



11月4日（金）13：50から氷川町公民館に於いて、第11回次世代育成推進フォーラムが開催されました。氷川町（組合）教育委員会、氷川町教育研究会、氷川町PTA連絡協議会は合同で、「次世代」を育てる教育環境を醸成する目的でこのフォーラムを行い、今年は11年目の年になります。

まず、教育長の主催者あいさつでは、「4月に地震が発生し、氷川町も甚大な被害を受けましたが、町民の皆様の助け合いで、困難を乗り越え現在に至っています。学力向上を目指す『ICT機器の活用』や『ひかわ型学習の取組』は、学校運営協議会の取組とともに本町教育の根幹をなすものです。本日は、東北大震災に遭遇された今泉先生のお話をお聞きし、今後の学校運営協議会の充実に生かしてまいります。」とありました。続いて藤本町長の来賓あいさつが行われました。その後、宮原小・氷川中の児童生徒の発表がありました。宮原小児童の元気な歌声と合奏・氷川中生徒の澄んだ歌声は、参加者たちの感動を呼びました。続いて宮城県石巻市立蛇田中学校長 今泉良正氏による講演「これからのコミュニティ・スクール～その目指す姿～」が行われました。（講演の内容は裏面に載せています。）

最後に、氷川中矢鉾先生が「益城中学校での体験から学んだもの」を発表され、「地震に負けず頑張る益城中の生徒達やそれを支える教職員の姿から多くのものを学んできました。そのことをこれからの氷川中や氷川町の学校づくりに活かして行きたい」と熱く語られました。この日は、氷川町内の教職員、保護者、地域住民の方々、約170名の過去最高の出席がありました。このフォーラムで学んだことを氷川町の子どもたちの健やかな成長のために、学校と地域の連携・協働でこれからも取り組んで行きたいと思います。



藤本町長の挨拶

子どもたちを育てる先頭に立つ町長でありたい。子どもたちは、町の宝です。氷川町はコミュニティ・スクールを通して地域でしっかり見守り育ててもらっている。コミュニティ・スクールやICT教育で先進地になるように頑張っていきたい。



太田教育長の挨拶



宮原小の合奏「世界の約束」
合唱「いつだって」



氷川中の合唱「結・遠く」

教育がエンジンとなって「地方創生」を

講演「これからのコミュニティ・スクール～その目指す姿～」



石巻市立蛇田中学校長 今泉良正先生のプロフィール

宮城県東部教育事務所在任時、東日本大震災（2011年3月）に遭遇。また、柴田町立東船岡小学校長時にコミュニティ・スクールを積極的に推進。その後、石巻市の学校教育課長を経て現在、石巻市立蛇田中学校長・文部科学省CSマイスターを務める。



今泉先生は、講演の前半で、東日本大震災の体験を話された。東部教育事務所で震災に遭い、地震の様子や津波による被害の状況・救助の様や避難所生活の様子を語られ、被害が甚大であったことや復興までの道のりを語られた。地域コミュニティがしっかりしているところほど避難所生活が上手く行ったとのこと。また、児童の精神面での影響も災害当時より、数年経ってから影響が出るとの話をされた。震災の教訓から石巻市では、全国でも珍しい「学校安全推進課」「学校防災会議」がつけられ、学校や地域の防災にあたられているとのこと。

講演の後半では、コミュニティ・スクールの目指す姿を話された。

これまで文科省は全国で3,000校の設置を目指すとして掲げていたが、平成27年12月の中教審答申で「これからはコミュニティ・スクールを、全ての公立学校で目指すべき」とした。学校が抱える複雑化した課題を解決し、子どもたちの生きる力を育むためには、地域住民の参画・協力が是非必要。そのためには、コミュニティ・スクールで地域住民や保護者が学校運営に参画する制度をつくり、地域との連携・協働体制をつくるのが大事である。今後は「地域学校協働本部」で、地域住民、団体等により緩やかなネットワークをつくる。学校の課題を学校・家庭・地域で共有し、目標に向かって、協働活動して行く必要がある。これからのコミュニティ・スクールは、学校が地域から支援を受けるばかりでなく、少子高齢化が進み地域が疲弊する中で、学校は人と人をつなぎ、まちづくりの拠点としての役割を果たすことが求められる。 ※氷川町のコミュニティ・スクールは、現在この方向を進めているところなので、氷川町も良い形で進んでいると改めて確認できた。

益城中学校での体験から学んだもの

矢鉾先生は、6月から10月の5ヶ月間 熊本地震で被害が大きかった益城中へ震災復興支援教員として派遣された。益城中で教務主任の先生と時間割を作成したり、自習支援をしたり、県外からの対応業務をされた。益城中では、先生達が日頃から生徒に寄り添って仕事をされている姿勢が素晴らしく、また地震に負けず頑張っている生徒たちも素晴らしかったとのこと。

「学んできたことを氷川町のために活かして行きたい。」と結ばれた。 **矢鉾先生お疲れ様でした！**



氷川中 矢鉾教諭の発表